

(事後評価)

ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点

(実施期間：平成 19～23 年度)

実施機関：信州大学（総括責任者：山沢 清人）

プロジェクトの概要

「新職位制度」と本拠点が独自に導入する「テニユア制度」、「人件費のポイント管理」を有効に活用し、「若手教員の自立」と「ベテラン研究者との協働」が両立する人事システム改革を行い、優れた若手研究者の育成を実現させる。スタートアップ資金と独立した研究スペースを用意し、若手研究者の自立的研究が可能な環境を整備する。また、海外派遣を定期的に行い、国際的視野を持つ研究者を育てる。外国人若手研究者には日本語学習を支援する。3年度目までに 22 名の TT 助教（うち 4 名は運営費交付金）を採用し、研究、国際および教育活動の評価に基づく中間評価およびテニユア審査を行い、中間評価で極めて優秀と認められる者については、准教授への早期昇進を審議する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
S	a	s	s	a	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

当初目標を上回る自機関テニユア職への採用、理工学系 4 学部へのテニユアトラック制（以下「TT 制」という。）の導入、外部委員を含む点検評価委員会による積極的な PDCA サイクル活用は高く評価できる。今後は、本プロジェクト実施期間中に制定した全学のテニユアトラック制度規程に基づいて、より多くの部局に TT 制を導入することを期待する。

- ・ **目標達成度**：自主経費によるテニユアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）の採用が目標を下回ったものの、実施部局の教員総数に対する TT 若手の比率は高く、互いに遠隔地にある 4 学部で TT 制を導入し、当初の目標を上回る TT 若手を自機関のテニユア職に採用したことは評価できる。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：雇用上の問題発生を極力防止することを基本として、公正かつ透明な仕組みの下に TT 若手を選考し、事前にテニユア審査基準を TT 若手に提示するとともに、TT 若手及び関係者の意見を取り入れつつテニユア審査基準適用を改善し、

テニユア審査を厳正かつ透明に行い、多様な若手研究者を採用・育成したことは高く評価できる。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：「ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点」における本プロジェクト運営は適切に行われ、フラットな職位制度の遵守、人事管理システムの一環とした人件費ポイント制を活用した TT 制を導入し継続することは高く評価できる。
- **制度設計に対するマネジメント**：米国の大学学部長を委員長とする点検評価委員会を毎年度開催し、チェック機能を強化した PDCA サイクルを活用するとともに、TT 若手からの意見聴取、外国籍 TT 若手への配慮、評価・審査報告内容の改善を行ったことは評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：当初の 2 学部から総合工学系研究科に関連する 4 学部すべてに TT 制を導入し、全学の TT 制規程を制定することによって全学への拡張を企図していることは評価できる。今後、人文・教育・経済などの部局に TT 制を普及・定着することを期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価結果の内容は、概ね本プロジェクト実施施策に反映されている。今後の TT 制の継続・定着において、外国籍研究者採用にあたっての多面的評価の実施や女性研究者採用数の増加を期待する。